

台東育英

VOL. 20

台東区立台東育英小学校

No. 5

校長 瀬下 清

<http://www.taitocity.net/taidouikuei-s/>

子供たちに「学び」の喜びと笑顔を

校長 瀬下 清

二十四節季（1年を24分割し、季節を表す言葉）では、昨日8月23日が「処暑（しょしょ）」でした。処暑は、読んで字のとおり「夏が過ぎること」という意味を表しています。江戸時代の暦の解説書「暦便覧」では、「陽気とどまりて、初めて退きやまむとすれば也」と記されており、処暑が昔から暑さが静まってくる頃とされていたことが分かります。気象の大きな変化もあって、今年の夏も処暑が過ぎても、まだ暑さは厳しいようです。

この10年間、ほぼ毎年のように国内では豪雨災害が発生し、甚大な被害をもたらしています。専門家によると日本海近海の海水温の上昇などが原因ともいわれ、地球全体がここ数年急激に変化をし、予測困難な時代が自然界でも到来しているようです。その上、今、世界規模で人類が戦っている新型コロナウイルス感染症では、全世界の感染者数が累計2000万人を上回っています。

時を同じくして、本年度からスタートした小学校学習指導要領が目指すこれからの学校教育は、持続可能な社会の担い手を育成することとあります。学校の教育活動の中で、基礎的基本的な学力を身に付けながら、子供たち同士が話し合い、課題解決をしていく学習活動を重ねていく中で、持続可能な社会の担い手としての人材が育成されていくのではないのでしょうか。そのためにも、台東育英小学校における日常の学習スタイルに目を向け、一層、充実した授業改善をしていかなければならないと考えています。

さて、本日から2学期が始まりました。3週間あまりの短い夏休みを子供たちは、新型コロナ感染症対策や熱中症予防をしながら、これまでと違った生活様式で過ごしたことだと思います。いつもと違い日焼けした子供たちが、少ないように感じましたが、元気な様子で台東育英小学校に戻ってきてくれたことが、何よりも嬉しく思います。

2学期には、各教科の学習内容に加え、学校行事として、体育発表会や音楽会が予定されています。全ての学校の教育活動が、子供たちにとって成長の機会となります。学校における新しい生活様式である台東育英スタイルで、安全第一を心掛け、一つ一つ丁寧に指導をまいります。

スイスの教育者ペスタロッチは「すべての学習はそれに元気と喜びとが伴わなければ一文の価値もない」「子供の顔に快活と喜びとが現われている間は、私は心配しない」と言っています。台東育英小学校の教育活動を通して、子供たち一人一人に「学び」の喜びと笑顔をたくさん生んでいきたいと思ひます。

保護者・地域の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いをいたします。